http://www.okayama.med.or.jp/activity/kaihou.html

岡山県医師会女医部会報

第32号
2021.9.25

岡山県医師会
〒700-0024
岡山市北区駅元町19番2号
TEL 086-250-5111
FAX 086-251-6622
mail:
oma@po.okayama.med.or.jp

INDEX

p1　第3回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ
　　—ゆっくりでも良い、指導医になろう—
p2　シリーズ女性医師支援
　　赤磐医師会病院
　　当院での女性内視鏡医に対する取り組みについて

第3回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ —ゆっくりでも良い、指導医になろう—

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　地域医療人材育成講座　助教　渡邉 真由

2020年12月13日に第3回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ—ゆっくりでも良い、指導医になろう—が開催されました。女性医師キャリア形成を目標として開催されております本会ですが、今回はCOVID-19感染拡大防止のためオンライン開催となりました。

平岡佐規子先生

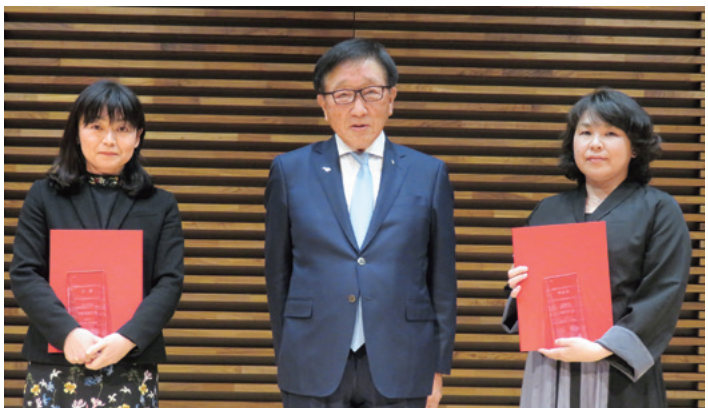
平岡佐規子先生（岡山大学病院炎症性腸疾患センター　准教授）が栄えある第3回天晴れジョイボスアワード大賞を受賞され、「炎症性腸疾患診療と私」についてご講演いただきました。昼夜を問わず仕事に邁進された研修医時代、研究に没頭された大学院時代、現職に就かれるまで乗り越えられた自身の葛藤など率直にお話しいただき、ご活躍されている先生でも悩まれていたのだと、励まされる思いがいたしました。また、印象深かった炎症性腸疾患の診療経験についてもお話しいただき、その患者さんの人生に長期間にわたって深く寄り添ってこられた先生の誠実さと、まっすぐ医療に取り組んでこられた姿勢を感じることができました。先生がご講演の中で、後輩、同僚、上司をはじめ、周囲の方々に対する感謝の言葉を度々述べられていることが非常に印象深く、指導医として周囲に感謝の気持ちを持ち、後輩の育成に尽力されているそんな素敵な先生だからこそ、優秀な後輩が育成され、「仲間」が多くおられるのだと感じました。

久徳弓子先生

久徳弓子先生（川崎医科大学神経内科学　講師）は天晴れジョイボスアワード奨励賞を受賞され、「Joy – boss〈医師人生を楽しむ〉」と題してご講演いただきました。「キャリア形成において大事なことは、女性のみでなく、全ての働く人にとって働きやすい職場環境を作ることであり、育児や介護など個々の状況によっ

て様々なキャリア形成があり、みんなで助け合うといった環境が『当たり前』である」と言われたことが非常に印象的で、このようなお考えの先生だからこそ、後輩が受賞に際して背中を押してくれたのだと感じました。

この場をお借りして、受賞された先生方や、ご参加いただいた先生方、他職種の方々に深謝申し上げます。来年はCOVID-19の流行が落ち着き、皆様に直接お会いできることを願い、また女性医師が指導医を目指し、自身のキャリアを形成することを支援するという素晴らしい主旨であるこの会が今後も益々発展し、続いていくことを祈念しております。



シリーズ
女性医師支援
病院での
取り組み
第26回

赤磐医師会病院 当院での女性内視鏡医に対する取り組みについて

赤磐医師会病院　副院長　柚木 直子先生

当院は、岡山市の北東に隣接する病床数245床の地域中核病院である。

と、いえば聞こえがいいが、要するに街に近い田舎の病院である。この地域では中核となる規模の病院であるので、急性期の救急患者の診療もしながら、慢性期の患者の診療もしなければいけないという状況である。常勤医は内科、外科、整形外科の3科であるが、内科と外科は創立時から消化器が中心である。だから、消化器内視鏡領域は、内科の大きな柱の一つである。年間の内視鏡件数は、今や4,000件をこえるまでとなっている。内視鏡担当の常勤医だけでは、とてもこなせるものではなく、大学からの応援や開業のDr.の応援（医師会立の病院であるので）はもちろんのこと、ここ10年ほどは多くの女性内視鏡医の力も大きな支えである。

私は10年ほど前から、女性内視鏡医の当院への勧誘をすすめてきた。

もちろん、院長をはじめとした病院関係者の理解があったからできたことではあるが、自分の娘が幼稚園のときから、当院で内視鏡を中心にfull timeで働いてきた経験が大きく影響している。自分の経験から消化器内視鏡医を選んだ女性は、常に内視鏡を持ちたいと思っている。内視鏡をもって仕事をしたいと、いつも思っていると、思う。

子供が病気になったら、急に休まないといけなくなると、周りに迷惑をかけることになる、それは、心苦しいと考える女医さんは今も多い。私は環境に恵まれて、なんとか無理矢理にも、過ごしてきたけれど…。自分のことを顧みながら、少しでも医師としての人生に途切れなく内視鏡にふれていられるように、という環境を、結婚や出産といった人生のイベントをかかえた女医さん達に提供したかった。

最初は、声をかけて歩いても（内視鏡学会でもこの取り組みについて報告もしたが）あまり注目してもら

えなかった。けれど6年ほど前から一人、二人と少しずつ女性内視鏡医が来てくれるようになった。医師になる女性の割合が増えたことも大きいと思われ、大学からの応援も女性が増えてきたことも追い風になった。口コミで当院で比較的自由な働き方ができるとひろまった。1週間のうち、好きな曜日の好きな時間だけ内視鏡をしてください、急な休みも、もちろんOK、私が全面的にカバーをします。という姿勢を継続した。

そうこうして、入れ代わり立ち代わりで、出産で休んでかえってきてくれた女医さんも含めて現在は私以外に5人の女性内視鏡医がいる。4人の女性は子育て（乳児から中学生まで）真っ最中のDr.である。（写真にある林田先生、三木先生、岡崎先生、國富先生と北村先生）

先述のように入れ代わり立ち代わりなのでメンバーは随時変化しているが、4，5人の女医さんが常時いてくれるようになってきた。

面白いことに（こういうと失礼かもしれないが）最初のころは、まずは週に1日か2日、曜日を決めて出勤していたDr.が、だんだん人数が増えてくると、他の女性Dr.と重ならないように、何とかして曜日と時間を調整して変更してきてくれる。

少しでも多くの内視鏡検査に自分が関わりたいという気持ちが働くからだと、私なりにうなずいてしまう。

こうして、私が悩まなくても一週間の内視鏡担当予定がきれいに決まっていくようになった。

もちろん隙間の曜日や時間の内視鏡、内視鏡施行後の入院などはすべて私が引き受けるが。

ありがたいことに2，3年前から、これが定着してきた。

時間を惜しんで内視鏡検査、治療をしにきてくれる女性内視鏡医は、懸命に、そして楽しそうに仕事をして帰るようにみえる。

今後の課題は、私の役目をひきついでくれる人を探すことである。気持ちがわかるから協力できるということがあるとは思うが、バックアップがあるから、変異的な働き方ができる、とも思うのだがどうだろう。

新たに医師になる中に占める女性の割合は増えている。医師になって仕事も継続したいが、結婚も子供もほしいと思う人も多い。それはそれでいいけれど、せっかく選んだ道だから、性別には関係なく、女医さんも覚悟をもって働いてほしい。

せっかく消化器内視鏡医の道を選んだのなら、子育てで足踏みをする時間が多少あったとしても、その道を全うしてほしい。覚悟を持って、ずっと働いてほしい。

子育てがすんで、大学で研究をしてくる人もいるだろう、すぐに臨床に戻りたい人もいるだろう。どんな道のりでもいいから、子育ての手が離れて、指導医まできたら当院のような病院で後輩を助けてあげようという女性内視鏡医が一人でも多くなったら…。

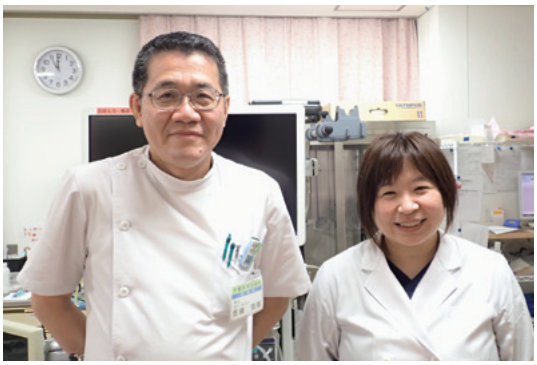
そして、当院のような街に近い田舎の病院が、医師不足といわれる昨今、消化器内視鏡という分野で生き残っていくのに必要なのは、こういう女性内視鏡医の循環をうまく利用していくことではないか。

大腸の内視鏡検査などは同じ女性にしてほしいという要望も最近は増えている。

地域の病院は世相にあった生き残りを考えてほしい。

今回、このような機会を与えていただき、当院のことを少しでも知っていただけて、またあらたな女性内視鏡医が当院にきてくださるきっかけになったら、ありがたいと思う。

それだけでなく、今後もますます女性の消化器内視鏡医が増えていくことを願っている。


佐藤院長と林田先生

左から三木先生、筆者、岡崎先生

左から北村先生、筆者、國富先生

令和 3 年度

岡山県医師会女医部会 関連行事

11月

14日(日)　**令和3年度女性医師支援・ドクターバンク連携中国四国ブロック会議**
WEB会議

12月

5日(日)　**令和 3 年度女性医師支援担当者連絡会**
WEB会議

11日(土)　**女医部会委員会**
岡山県医師会館

12日(日)　**第 4 回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ**
岡山県医師会館

19日(日)　**山陽女子ロードレース(救護室応援)**
岡山県総合グランド

3月

13日(日)　**女性の健康週間　県民公開講座**
岡山県医師会館

※ 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、延期・中止になることもございます。

編集後記

昨年度より委員に就任しました倉敷医師会理事の横尾です。皮膚科開業医です。よろしくお願い致します。平成30年まで倉敷市から委員が就任していましたが、2年間は不在、また理事からの委員でなかったため、倉敷医師会内への女医部会の活動がフィードバックされにくい状況が続いていました。今回、委員会に参加し活動に刺激を受け、どんどん倉敷医師会会員の方々に伝えていきたいと強く思ったところです。倉敷市は岡山市に次ぐ大きい市なのに、参加する委員が一人では寂しいような…。

倉敷医師会は平成28年に「倉敷女性医師の会」を設立しました。各病院の女性医師支援などの取組みや問題点などの情報を発信・共有し地域連携の強化などを目的とした講演会を行っています。令和2年2月の第3回では県医師会女性医師復職支援事業の一環として岡山大学片岡仁美教授による講演会を行い、“女性医師の活躍支援を宣言”しました。この講演会の内容は山陽新聞に大きく取り上げられ（ちょっと誇張…）、さぁ、これから!という時にコロナ禍に巻き込まれ、残念ながら昨年度は活動できておりません。そんな中でも女性医師の先生方に医師会に関わっていて頂きたく、会報内に「ALIVE！女性医師の会より」のコーナーを新しく設け、寄稿頂いています。女性医師の先生方は忙しい中、原稿の依頼に快諾下さり、充実した内容のページとなっています。機会があればご覧になって下さい。今年度は「女性医師の会」の講演会を企画しており、会員や理事の先生方のご理解とご協力を頂き、引き続き川崎医大皮膚科青山裕美教授が強力にバックアップしてくださる中（ほんとに心強い）、倉敷中央病院西川真那先生（産休中!）がエネルギッシュに企画を進めてくださっています。「男性医師の会」が存在しないように「女性医師の会」っておかしいよね、という将来がくることを望んでいます。

皆様、ニューノーマルとなった日常、頑張りましょう!

岡山県医師会女医部会委員　横尾 雅子